交流集会

11 月 6 日 (土)　16：15 ～ 17：45

■交流集会 1 ：第 5 会場　（402 会議室）

癒しを目的とした " 人に触れるケア (タクティールケア)" の有効性と今後の活用の方向性

鈴木みずえ（浜松医科大学），千葉京子（日本赤十字看護大学），小泉由美（金沢医科大学）

タクティールケアはスウェーデンで開発・発展された手法であり、皮膚を柔らかく撫でるように一定の法則によって触れるタッチとマッサージの中間の位置づけにある。スウェーデンでは認知症ケア、緩和ケア、リハビリテーション、教育に導入されている。認知症高齢者に対する非言語的コミュニケーションツールとしても有効であると言われている。老年看護におけるタクティールケアの有効性と今後の活用の方向性について検討し、討議する。

■交流集会 2 ：第 6 会場　（401 会議室）

認知症の人が転院，何を知りたい？何を伝えたい？
―急性期病院，認知症専門病院，長期療養型病院の立場から―

白取絹恵（東京都健康長寿医療センター），石川容子（医療法人社団翠会和光病院），
四垂美保（医療法人社団慶成会青梅慶友病院），上野優美（横浜市立みなと赤十字病院）

療養型病院などに入院している認知症の人が、身体疾患の治療のため急性期病院に転院することがある。しかし、急性期病院では、認知症にともなう症状により、治療やケアに苦慮することが多々ある。また、治療を終えて療養型病院へ戻った後、必要なケアが継続されずに身体疾患の再発や悪化を繰り返すことがある。このような状況をなくし、認知症の人が、どこの場所においても適切な看護を受けられるようにすることが必要である。そこで、看護の連携をテーマに認知症看護認定看護師の立場から、参加者とともに深めたい。

■交流集会 3 ：第 7 会場　（503・504 会議室）

共に創る！―老人看護 CNS コース実践演習―

西山みどり（神戸海星病院），水谷信子（兵庫県立大学），岡本充子（近森病院），
桑田美代子（青梅慶友病院），得居みのり（姫路聖マリア病院），吉岡佐知子（松江市立病院）

大学院 CNS コースにおける実践演習は、CNS としての 6 つの役割を体験し、修了後の CNS としての実務経験を積むための基礎となる重要なものである。昨年より CNS コース修了後半年の実務経験で CNS 認定試験を受験することが可能となり、実践演習のあり方が重要になってきている。そこで、大学院 CNS コースの教員と、実践演習の指導者であり、自らも実践演習を行ってきた CNS の立場から発言し、効果的な実践演習のあり方についてフロアと議論したい。

■交流集会 4 ：第 8 会場　（505・506 会議室）

学生と高齢者が主役となる地域の特徴を生かした参画型看護教育

永田美和子（名桜大学人間健康学部看護学科），稲垣絹代（名桜大学人間健康学部看護学科），
石川幸代（名桜大学人間健康学部看護学科），大城凌子（名桜大学人間健康学部看護学科），
鈴木啓子（名桜大学人間健康学部看護学科），徳田菊恵（名桜大学人間健康学部看護学科）

大学と地域連携の一環として、沖縄の文化の特性である ' ゆいまーる ' （相互扶助）を活かしながら、住民が主催する朝市活動の場に学生が参画し健康づくり活動を実施してる。また、大学での高齢者看護の講義に地域の高齢者に参加していただき、双方型学習に取り組んでいる。私たちの取り組みの一部を紹介させていただきながら、学生と高齢者が主役になるような参画型看護教育について意見交換をし示唆を得たい。